

「水の都大垣学習コーナー」はじまる

大垣市立図書館
郷土資料室
便り

10月14日(月・祝) 午後
11月4日(月・祝) 午後

現在の大垣城



「カメの池」は、大垣駅前

広場にあった噴水池のことで、池にたくさんのカメがいたことから、この愛称がつけられました。昭和13年(1938)に大垣出身の彫刻家中村輝氏により「噴水」が設計され、昭和16年(1941)に設置計画及び着工となりました。昭和17年に防火貯水池として竣工し、昭和18年から19年頃に噴水装置の設置や、植樹などの整備が行われました。昭和61年(1986)に行なわれた駅前改築に先立ち、昭和59年に旧大垣市役所東にあった丸の内公園へ移転しました。その後、平成30年(2018)に「水都の泉」として新たに生まれ変わりました。

「水都の泉」

学ぶ大垣講座 開講中！

回	日にち	テーマ／講師
4	10月14日(月・祝)	関ヶ原合戦直前の大垣城主伊藤氏／児玉剛(図書館職員)
5	11月4日(月・祝)	大垣藩の武術／織田光一(図書館職員)
6	令和7年 1月13日(月・祝)	大垣藩預所『美江寺宿』／ 北村厚史氏(瑞穂市教育委員会生涯学習課社会教育指導員)
7	2月15日(土)	『籐渠漫筆』を読む／横幕孜氏(元大垣市史編纂室専門員)
8	3月20日(木・祝)	

◎時間：各回とも午後１時３０分～３時まで。会場：スイトピアセンター学習館２階 スイトピアホール

※第1回～第3回は終了しました。

※会場受講、オンライン受講ともに新規受講可能です。ご希望の方は3階郷土資料室までおたずねください。

大垣よもやまコラム

ものがたり大垣城

(9)大垣城の戦いゝその2ゝ 七騎多門の戦い

坂東 肇

大垣城の戦いで、最も激しく戦われたものとして七騎多門の戦いがあります。江馬活堂の『藤渠漫筆』によりますと、二の丸多門で、地侍の松井二騎、堀吉騎、成田吉騎、沼波玄古秀実、同太郎左衛門秀季、其子清太夫秀知、この七騎を中心として、東軍の攻撃を最後まで防いで門を破られなかったということです。これにより、後にこの門を七騎多門と呼ぶようになったと伝えられています。

この七騎の中で松井氏、沼波氏については、永禄6年(1563)氏家直元(卜全)が大垣城主の時に、次のような話があります。当時、市役所南東部付近は、伊勢町(江戸時代は松の丸)と呼ばれ、沼波玄古秀実や松井喜右衛門等が居住する場所でした。直元が大垣城の範囲を広げようとして、玄古を南口大手付近(現在のミズノカメラ付近)に、喜右衛門を東口大手付近(現在の廣嶺神社付近)に移

住させ、2人には、それぞれの区域の警備をさせました。そして関ヶ原合戦では、この2人をはじめとする地元の侍たちが城内に入り大活躍したのです。

では、七騎多門は江戸時代の大垣城でみると、どの門にあたるのでしょうか。七騎が多門の戦いでは、東軍が東口大手を破って突入してきた時です。まだ、裏切りが起きる前の、両軍ともに士気が高かった頃になり、城内へ東軍を入れないとする必死の戦いが、七騎多門の戦いと考えられます。そうすると、『藤渠漫筆』の記述通り二の丸門か、数ヶ所東の三の丸門付近になります。ただ、現地を歩くと二

の丸と三の丸の間隔は短いので、まずは手前の三の丸門で激しく戦ったのではないかと考えられます。三の丸へ入る所の門は、江戸時代の太鼓門あたり、現在のKixビルや街角プラザ付近になります。つまり、現在本町通りの田中屋せんべい本店の角を曲がって、ブラツキ街を西へ向かうと、廣嶺神社あたりが東口大手門になります。それを突破して西へまっすぐに進撃して、街角プラザ付近にあった門で防いだのではないのでしょうか。

七口門としての東口大手門、南口大手門があったと考えられます。現在、似た名前の「七間多門」という標示が、大垣城天守南にあります。これと七騎多門は別物です。もともと、多門の幅が七間(約12.6m)あったために、この名がついたと思われます。(次号へ続く)



大垣城・太鼓門付近

大垣を
深めよ!

Gaki
Quiz

私はだれでしょう。

ヒント①

私は、嘉永7年(1854)に大垣で誕生しました。

ヒント②

私は、大垣藩だけでなく、新政府の外交官や宮内省の役人としても働きました。

ヒント③

私の妻は、その美貌から「鹿鳴館の花」と称され、英語やダンス、琴の名人でもありました。

おすすめの一冊

『大垣と明治維新』

清水進／著



本書は、幕末から明治維新にかけて大垣が果たした役割を、写真とともにわかりやすく解説する一冊です。

維新に尽力した大垣藩の藩主や小原鉄心父子の活躍、瘡(そう)天然痘の発症や治療、渋沢栄一と縁のある岐阜県の人々などについて紹介しています。

レファレンス 事例簿

【問い合わせ】

小原鉄心が書いた書「酔中大書」の題のよみが知りたいです。

【回答】

「酔中大書」の書を残した小原鉄心については、大垣市文教協会発行『改訂増補 郷土大垣の輝く先人』【郷土283・1／オオノ】に、「大

垣藩の藩政改革の推進者 小原鉄心」などの詳細が書かれています。このほかに、大垣市教育委員会発行『小原鉄心と彼を支えた人々』【郷土289／オオノ】には、「鉄心の酒好きは有名で(中略)酔到ると酔中に筆を揮ったことが伝えられている。」とあります。

「酔中大書」をキーワードとして検索すると、大垣市教育委員会発行『大垣市郷土館年報 平成7年度』【郷土0

69／H7」の表紙にこの書の写真が掲載されていることがわかりました。また、大垣市文化財保護協会発行『小原鉄心小伝』【郷土289／オオノ】から「百礼の会 酒あらずんば行なわれず」の書が「酔中大書」として、大垣市指定重要文化財となっているなどの詳細がわかります。

これらの資料には、題や書の内容のみが記されており、よみがわからなかったため、諸橋轍次著『大漢和辞典』【8



13／」巻3と巻11で調べたところ、「酔中」は「スイチュウ」、「大書」は「タイシヨ」とあったことから、これをもとにすると「スイチュウタイシヨ」とよむことができます。